

Letter for Members

【コンテンツ】

- 支部学術大会報告 1
- Centennial Meeting of the Academy of Prosthodontics
参加報告 7
- 11th Biennial Congress of Asian Academy of
Prosthodontics 開催報告 8
- 46th Indian Prosthodontic Society National Conference
Mangalore 2018報告 9
- 第4回補綴歯科臨床研鑽会「プロソ'18」開催報告 11

支部学術大会報告

●東北・北海道支部学術大会報告

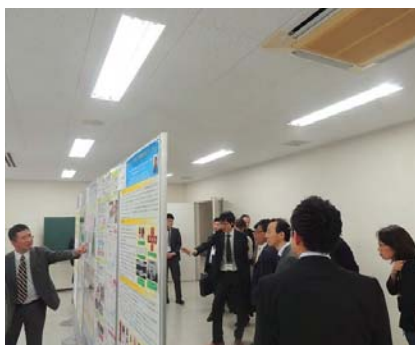
平成30年度東北・北海道支部総会・学術大会が北海道医療大学歯学部高度先進補綴学分野の舞田健夫を大会長として平成30年10月13日(土)、14日(日)の両日、北海道自治労会館にて開催されました。今回の学術大会の特別講演では松岡紘史先生に「歯科外来で注意すべきところの問題：認知行動療法による理解と対応」、小林國彦先生に「『接着』-なぜ着くのか、なぜ外れるのか、基本に戻る-」のテーマでご講演いただきました。倫理審査改正説明会では江草宏先生に「臨床研究法の施行に伴う本学会の倫理審査改正について」のテーマで解説していただきました。また、一般口演5題、ポスター発表10題、専門医ケースプレゼンテーション6題の発表があり、活発な質疑応答が行われました。併催の専門医研修会ではメイ

ンテーマを「補綴歯科治療における歯科医師と歯科技工士の連携」として、後藤まりえ先生には「歯科医師・歯科技工士連携による部分床義歯補綴治療」、田邊憲昌先生には「歯冠補綴のデジタルワークフローにおける歯科技工士との連携」のテーマでそれぞれの専門分野でのチーム歯科医療のポイントを解説していただきました。そして「お口の機能を保って健康長寿-お口の機能を検査していますか?-」と題した市民フォーラムでは會田英紀先生に、また、生涯学習セミナーでは山口泰彦先生に「補綴歯科関係新規保険収載医療技術の解説」についてご講演いただきました。

今回の学術大会では約200名の方々にご参加いただき、関係各位にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。
(北医療大 田村 誠)



特別講演講師の小林國彦先生と舞田健夫大会長



ポスター発表会場



専門医研修会講師の田邊憲昌先生(左)と後藤まりえ先生(右)

● 関越支部学術大会

平成 30 年度関越支部総会ならびに学術大会は、平成 30 年 11 月 11 日 (日) に、新潟大学大学院医歯学総合研究科包括歯科補綴学分野 小野高裕教授を大会長とし、朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンターで開催されました。午前の学術大会では、一般口演 9 題と専門医ケースプレゼンテーション 5 題が発表され、活発な討議が行われました。

午後には、「スポーツには噛み合わせがこんなに大切」と題して市民フォーラムが開催され、スポーツ歯学の先駆者である東京歯科大学の石上恵一先生と、新潟県の野球強豪校、日本文理高等学校野球部総監督の大井道夫先生のお二人を講師に迎え、スポーツのパ

フォーマンスと咬合の関係についてご講演をいただきました。

また専門医研修会には、東京医科歯科大学大学院地域・福祉口腔機能管理学分野の古屋純一先生に、「摂食嚥下リハビリテーションで補綴装置を活かす」というテーマで、摂食嚥下支援という視点から見た義歯や PAP を用いた補綴治療の役割について、ご講演をいただきました。

この度の支部大会は、新潟県歯科医師会主催の新潟県歯科医学大会と併催させていただき、例年に比べ多くの方にご参加いただきました。この場をお借りいたしまして関係各位に厚く御礼申し上げます。

(新潟大 佐藤直子)



市民フォーラム講師のお二人とともに (左：大井道夫先生、中央：石上恵一先生)

● 東関東支部・西関東支部合同学術大会

平成 30 年 11 月 11 日 (日) に、京成ホテルミラマーレ (千葉市) において、日本大学松戸歯学部有床義歯補綴学講座 河相安彦大会長、神奈川歯科大学・西関東支部支部長 井野 智副大会長のもと、平成 30 年度公益社団法人日本補綴歯科学会東関東支部・西関東支部総会・合同学術大会を第 18 回千葉県歯科医学大会と共催させていただきました。

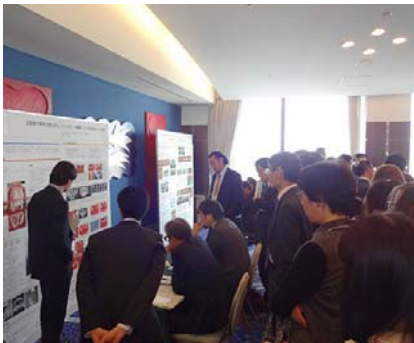
学術大会午前のプログラムでは一般口演 13 演題が発表され活発な質疑応答が行われたなか、演題の中から特に優秀な発表にイーストレイキ賞が授与されました。専門医ケースプレゼンテーションの審査も厳粛な空気の中で行われ専門医を目指す若手会員の先生方が口頭試問に聞き入っていた。午後のプログラムは特別講演に千葉県歯科医師会との相互交流を行っている韓国京畿道歯科医師会から Dr. Young Whee Son をお招きし、インプラントのガイドドサージェリーに関

する臨床例を供覧いただいた。学術大会終了後に開催された市民フォーラムでは明海大学の岡本和彦先生に「歯を喪失その時あなたの選択は」と題してわかりやすくそしてユーモアを交えてご講演いただいた。

学術大会前日の 11 月 10 日 (土) に開催された生涯学習公開セミナーでは東京医科歯科大学の鈴木哲也先生をお迎えし、先生の貴重なご経験談も交えて「補綴歯科関係新規保険取載技術の解説」をしていただいた。また、専門医研修会では神奈川歯科大学の本本克彦先生と鶴見大学の久保力廣先生をお招きし「デジタル・CAD/CAM 補綴の UP TO DATE と展望」と題してご講演いただき、最新のデジタル技術を用いたクラウン、インプラント、有床義歯の未来について多くの示唆をいただいた。本学術大会への参加者は 206 名を数え盛会裏に幕を閉じる事ができたのも、両支部の先生方の多大なご協力の賜物であり紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。(日大松戸・河相安彦)



東西支部会員集合写真



専門医ポスター



大会長と支部長



イーストレキ賞

●東京支部学術大会



開会式の様子



専門医研修会での感謝状贈呈



専門医申請ケースプレゼンテーションの様子

平成30年11月24日(土)、25日(日)に日本大学理工学部駿河台キャンパス CSTホール(東京都千代田区)において、日本大学歯学部歯科補綴学第1講座 飯沼利光大会長のもと、平成30年度公益社団法人日本補綴歯科学会東京支部総会・第22回学術大会が開催されました。一般口演14題、専門医ケースプレゼンテーション8題が発表され、活発な質疑応答が行われました。

特別講演では、赤坂フォーラムデンタルクリニック

坪田健嗣先生より「患者の満足度を高める歯肉ラインへの対応を考えた補綴法」と題してのご講演や、日本大学歯学部細菌学講座 今井健一先生より「口腔細菌と全身疾患との関わり」と題してご講演をいただきました。

生涯学習公開セミナーでは、日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第1講座 志賀博先生より「補綴歯科関係新規保険収載医療技術の解説」というテーマで、大白歯CAD/CAM冠、有床義歯咀嚼機能検査、口腔

内装置、有床義歯内面適合法を題材として、適応症の判断、術式や評価法、成功させるポイント等をご教授していただきました。

25日に行われた専門医研修会では、日本大学歯学部放射線学講座 新井嘉則先生より「義歯治療における診査・診断へのデジタル技術活用」、鶴見大学歯学部有床義歯補綴学講座 大久保力廣先生より「CAD/

CAM デンチャーの現状と可能性」と題しご講演していただきました。

また学術プログラムの他、企業展示や懇親会も行われ、多くの先生方に御参加いただき盛会裏に終えることができました。御尽力いただきました先生方に厚く御礼申し上げます。(日本大 飯沼利光, 高津匡樹)

●東海支部学術大会

平成30年10月27日(土)と28日(日)の2日間、愛知学院大学楠元キャンパス110周年記念講堂において、愛知学院大学歯学部有床義歯学講座の武部 純大会長のもと、平成30年度公益社団法人日本補綴歯科学会東海支部総会・学術大会が開催されました。本学術大会は、メインテーマに「補綴歯科と健康の調和」を掲げて、併催の市民フォーラムと生涯学習公開セミナー、専門医研修会と共に企画致しました。

市民フォーラムでは、「高齢者における口腔機能管理」というテーマのもと、国立長寿医療センター在宅・口腔ケア開発室室長の 大野友久先生から「口腔から支える健康長寿」、鶴見大学講師の菅 武雄先生からは「口から食べることをあきらめない」という演題でご講演をいただきました。その後は、特別講演Ⅰにおいて愛知学院大学心身科学部教授の丸山和佳子先生より「超高齢者社会における認知症とオーラルフレイルに関する最新の知見」と題してご講演をいただきました。次に特別講演Ⅱにおいては、本学会の名誉会員になられた服部正巳先生より「金属アレルギーの診断とメタルフリー歯科治療」、と鷹股哲也先生より「歯科補綴学を出発点として-45年間を振り返って-」と題してご講演をいただきました。学術大会初日にはキャンパス内のカフェテリアにて、会員間の情報交換や親睦を深める懇親会が行われ、盛り上がりしました。

学術大会2日目は、一般口演7題、武部理事・支部長のもとで「臨床研究法の施行に伴う倫理審査の改正について」の説明および総会、生涯学習公開セミナー、専門医研修会が開催されました。医療問題検討委員会と社会連携委員会主導の生涯学習公開セミナーでは、日本歯科大学教授の五味治徳先生がご担当なされ、「補綴歯科関係新規保険収載医療技術の解説」についてご講演をいただきました。学会の最後のプログラムである専門医研修会では、「歯冠補綴・有床義歯補綴治療の術後管理を考える」と題して行われました。はじめに愛知学院大学准教授の竹内一夫先生が「超高齢者における補綴歯科治療の術後管理」について、引き続き東海支部理事の蒔田真人先生が「長期経過症例から考える術後管理の重要性」についてご講演をいただきました。一般口演を含め、会場からは活発な質疑応答が行われました。晴天にも恵まれて、参加者数は延べ276名という盛況ぶりで会を終えることができました。

今回の学術大会が会員や地域歯科医師会、歯科衛生士会、技工士会の先生方との学術交流、学生や一般市民の皆様の知識の向上に大いに役立てたものと考えております。ご支援を賜りました関係各位に心から感謝とお礼を申し上げます。

(愛院大 尾澤昌悟, 熊野弘一)



左から市民フォーラム座長の石神先生、講師の菅先生と大野先生、武部支部長



左から特別講演Ⅱ座長の倉澤先生と村上先生、講師の鷹股先生、武部支部長、講師の服部先生

●関西支部学術大会

平成30年12月1日(土)、2日(日)、一般社団法人石川県歯科医師会(蓮池芳浩会長)の後援で金沢市アートホールにおいて、大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座 矢谷博文大会長のもと、平成30年度公益社団法人日本補綴歯科学会関西支部総会・学術大会が開催されました。

今回の学術大会では、後期高齢者に対して健康寿命を延伸させるための補綴歯科の役割について、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 高齢者歯科学分野 水口俊介教授により、「健康長寿に貢献する補綴歯科」と題した特別講演を通じてわかりやすく解説いただきました。このほかに、一般口演18題、専門医ケースプレゼンテーション5題の発表がありました。

12月1日には、同じ会場で、特別講演の演者でもある水口俊介先生による「食べることは元気と長生きの素! だから・・・義歯が大切!!」をテーマに、市民フォーラムが開催されました。また、学術大会と

併催の生涯学習公開セミナー①では、「補綴歯科関係新規保険収載医療技術の解説」をテーマとして、大阪歯科大学有歯補綴咬合学講座 田中昌博教授に、今年度新たに保険収載された医療技術について解説いただきました。さらに、生涯学習公開セミナー②では、「CAD/CAM冠の基礎と臨床」をテーマとして、高橋英和先生(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 口腔機材開発工学分野教授)、末瀬一彦先生(大阪歯科大学客員教授)、峯 篤史先生(大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座)の3名の先生方に、CAD/CAM冠の基礎知識に加え、臨床で重要となる症例選択や支台歯形成、さらに接着について具体的に講演いただきました。

12月の金沢としては、穏やかな天候に恵まれ、200名以上の方々に参加をいただきました。開催に際し、ご尽力をいただいた石川県歯科医師会をはじめとする関係の方々に心よりお礼申し上げます。

(大阪大 中村隆志)



特別講演の水口俊介教授と矢谷大会長



生涯学習公開セミナー②の講師3名と矢谷大会長

●中国・四国支部学術大会

平成30年9月1日(土)、2日(日)、徳島大学大塚講堂(徳島県徳島市)において、徳島県歯科医師会副会長の佐藤修齋大会長(会員、専門医・指導医)のもと、平成30年度公益社団法人日本補綴歯科学会中国・四国支部学術大会が開催されました。

一般口演6題、ポスター発表11題、専門医ケースプレゼンテーション4題が発表され、いずれも活発な質疑応答が行われました。

今回の学術大会では、生涯学習公開セミナーⅠ、Ⅱ、専門医研修会を併催しました。生涯学習公開セミナーⅠでは、大阪歯科大学 田中昌博先生より「補綴歯科

関係新規保険収載医療技術の解説」と題し、生涯学習公開セミナーⅡでは、深井保健科学研究所 深井穂博先生と東北大学 服部佳功先生に「補綴歯科の考え方は地域包括ケアシステムの中でどう生きるか」と題してご講演いただきました。

専門医研修会では、「補綴歯科治療の評価・検査をこう役立たせる」というテーマで、東京支部 宮地建夫先生、岡山大学 皆木省吾先生、広島大学 阿部倉仁先生にご講演いただきました。

市民フォーラムでは、佐藤修齋大会長による講演と、住友雅人日本歯科医学会会長、大西英治徳島県東部保健福祉局長、河野文昭中国・四国支部長、および当地

で活躍するチーム娘にゃンドルの2人をパネリストとした座談会により、補綴歯科治療についてわかりやすく解説しました。

参加者は約200名で、盛況のうちに会を終了することができました。ご尽力いただいた徳島県歯科医師会ならびに事務局の皆様へ深く感謝申し上げます。

(徳島大 渡邊 恵)



佐藤修齋大会長



会場風景



市民フォーラム質疑応答の様子

●九州支部学術大会

平成30年8月25日(土)、26日(日)に熊本県歯科医師会館において、浦田健二大会長(熊本県歯科医師会会長)のもと平成30年度九州支部学術大会が開催されました。25日は、「口腔インプラント治療と研究をつなぐ」という共通テーマで招待講演が行われました。教育講演では大分県開業の土屋嘉都彦先生に「治療計画に必要な咬合理論」と題し、治療計画や検査の重要性についてご講演いただきました。翌26日には特別講演が行われ、鶴見大学教授の花田信弘先生より「栄養・運動と全身の健康の架け橋を担う歯科補綴」と題して生活習慣病の1次予防を担う歯科補綴の在り方についてご講演いただきました。また、ポスター発表18題、専門医審査が1題発表され、活発な質疑応答が行われました。

併催された生涯学習セミナーでは鹿児島大学教授の南 弘之先生より「補綴歯科関係新規保険収載技術の解説」についてお話をいただき、専門医研修会では、東京歯科大学教授の山下秀一郎先生より「QOL向上に貢献できるパーシャルデンチャーを目指して」、鶴見大学教授の大久保力廣先生より「有床義歯製作におけるアドバンスドテクニック」と題してパーシャルデンチャーの臨床についてわかり易くご講演いただきました。市民フォーラムでは、鹿児島大学助教の原田佳枝先生に「義歯と健康」について分かりやすくお話いただきました。

229名の先生方にご参加をいただき、盛況の内に会を終えることができました。ご参加いただいた先生方に厚く御礼申し上げます。(鹿児島大 村上 格)



特別講演の様子



左から西村九州支部長、専門医研修会講師の山下先生と大久保先生、座長の古谷野先生

Centennial Meeting of the Academy of Prosthodontics 参加報告

2018年5月9日（水）～12日（土）の4日間にわたり、Academy of Prosthodontics (AP) 100周年記念大会がイリノイ州シカゴにて開催されました。今回はアメリカの歯科補綴界を動かした学会の100周年ということで、当科からは科長の古谷野を含め5名で参加させていただきました。ちなみに会場となったソフィテルホテルはシカゴのダウンタウンの中にあって、地に突き刺さるような「くさび形」の外観が群を抜いて印象的であり、豪華な内装も実に魅力的なものでしたが、それ以上に大会中は見渡す限り重鎮の先生ばかりで、一人キョロキョロと落ち着かない時間を過ごしました。

大会は5月9日の朝8時半に Opening Ceremony として President である James Taylor 先生の挨拶から始まり、それ以後は引退された先生から現役の若い先生まで多くの fellow が順番に次々と発表していきました。AP の歴史を話す人や最新の研究を話す人、症例を淡々と示す人や、咬合などの理論を講義する人もおり、1人わずか15分ですが密度高く情報が盛り込まれており、アメリカにおける歯科補綴の歴史100年分を早回しで見ることのできる、圧倒されつつも得をしたような内容でした。

しかし最も圧巻だったのは、金曜の夜にコンgresホテルで開催された President's Reception and Installation Banquet でした。渡米前の参加申し込みの際にタキシードに蝶ネクタイというドレスコードがあったので期待（覚悟？）はしておりましたが、想像以上の格式の高さに場違いさを感じずにはいられません。とにかく経験したことのない豪華な雰囲気、に圧倒されてしまい、終始口が開きっぱなしでした。

ところで Banquet 会場となったこのコンgresホテルはダウンタウンの中央に位置する学会会場からは少し遠く、参加者も5台近いバスで10分ほどかけて移動することになりました。近代的な学会会場とは対照的に古めかしい外観であり、なぜわざわざこのホテルが選ばれたのかと思っていましたが、実は「学会が発足した1918年に最初のミーティングとなる“National Dental Association meeting”の会場となったホテル」ということです。そこに歴代の President が集まっての晩餐会です。厳粛で歴史ある建物と錚錚たるメンバーに囲まれて過ごす時間は感動的で、本会に参加して良かったと心より思いました。

最後にこの Banquet に限らず、学会会場や Tea Time などでは George Zarb 先生や小宮山彌太郎先生など、その他多くの先生と話す機会がありました。こういった交流も含めて本会への参加理由であったため、本当に貴重で有意義な体験ができたと思っています。
(九州大 熱田 生)



AP100周年記念大会のポスター前で集合写真



コンgresホテルのバンケット会場。過去の学会写真をスライドで流しつつ歴代のプレジデントが挨拶をしていく。



メインとなった講演会場。発表の度に意見や質問が飛び交い活発なディスカッションが展開されていた。

11th Biennial Congress of Asian Academy of Prosthodontics 開催報告

2018年9月、アジア補綴学会(AAP)とマレーシア補綴学会(MAP)がマレーシア首都クアラルンプールにおいて同時開催されました。参加国はマレーシアを筆頭にフィリピン、大韓民国、中国、日本、台湾、インドネシア、インド、パキスタンなど19カ国、総勢375名が参加し、153の応募演題から採用された116演題の発表が行われました。本学会では、ポスター発表にコンペが適用されており、日本補綴学会の学会員らも審査員の先生方と熱い討論を交わし、充実した時間であったことと存じます。

日本補綴学会からの招待演者として、九州大学鮎川保則先生が“The influence of topographical and chemical properties of dental implants on soft tissue integration”と題し、インプラントのチタンの各種表面形状と、カルシウム水熱処理の封鎖改善効果が軟組織封鎖性に与える影響についてご講演なさいました。また、大阪大学十河基文教授によるワークショップ、愛知学院大学竹市拓郎先生による“Up To Date Zirconia Resin Bonded Fixed Partial Denture: What Have We Learned?”と題したジルコニア接着ブリッジ修復についての文献的考察と症例掲示によるご講演もありました。東京医科歯科大学隅田は、“Speech Rehabilitation Forum: Talk to me, Talk with me”のシンポジストとして登壇し、Speechのメカニズムと日常臨床で実施できる評価方法の紹介を致しました。別講演の“Current

Maxillofacial Prosthetics Treatment and Research in Tokyo Medical and Dental University”では、顎顔面補綴の最近の傾向と東京医科歯科大学顎顔面補綴学分野での現在の取り組みについて、臨床と研究の双方の紹介および相互の関係性についての講演を行いました。多岐に亘るプログラムの中には、著名な保存修復家であるDr. Francesco Manganiによる、“Quality and Excellence in Modern Adhesive Dentistry”の講演などもあり、通常の補綴学会での切り口とは異なり、新鮮な気持ちで拝聴致しました。

今回のAAPでは、市川理事長、細川国際渉外委員会委員長がご登壇なされ、以下の2名に対し“Hiranuma-JPS Award”の贈呈が行われました。

Dr. Jung-Bo Huh (Korea): Development of Novel Implant Prosthesis System with New Concept for Easy Maintenance

Dr. Peerapat Kawewongprasert (Thailand): Digital Revolution in Complex Full Arch Implant Rehabilitation: Is the Future Already Here?

故平沼先生そして平沼先生のご遺族様のご理解、大阪大学前田芳信先生のご指導、AAPにおけるJPSのプレゼンスを継続してお示し下さる古谷野元理事長のご尽力で執行されましたことをご報告申し上げます。ご関係の皆様へ、改めまして御礼申し上げますとともに、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。
(医歯大 隅田由香)



懇親会では、次期大会主幹インドネシア補綴学会からご参加のProf.Laura先生らと共に、歓談致しました。



閉会式におきまして、市川理事長と細川国際渉外委員長によってHiranuma Awardが贈呈されました。

46th Indian Prosthodontic Society National Conference Mangalore 2018報告

2018年11月16日から18日まで、マンガロールでインド補綴歯科学会学術大会が開催されました。インド補綴歯科学会と日本補綴歯科学会は共同で種々の企画を実施しています。1つは学術大会での招待講演であり、今回は九州歯科大学の細川隆司先生（日本補綴歯科学会国際渉外委員会委員長）と徳島大学の松香芳三（同 委員）が参加し、発表しました。また、その他には、インド補綴歯科学会から推薦された若手研究者を日本補綴歯科学会で受け入れています。

今回のインド補綴歯科学会学術大会は臨床に直結する講演と学生による研究発表という構成でした。16日の夕方には総会が開催され、理事長による今後の方向性に関する報告、功労者の表彰などが行われました。その後、インド補綴歯科学会からの推薦で、これまでに日本の大学に短期留学した研究者の表彰が行われ、細川先生が表彰状を授与されました。

17日の午前には「Basic pain mechanisms and management of orofacial pain and temporomandibular disorders」と題して、松香が発表し、午後には「Implant treatment for aged and metabolically compromised patients: Novel biomedical approach」と題して、細川先生が発表されました。インド補綴歯科学会会員には興味深い内容であったよう

です。

インド補綴歯科学会学術大会への参加者は2,500名とのことであり、聴衆が多いことから、熱気が感じられる学術大会でした。学術大会参加者は親切な人が多いという印象であり、英語を容易に理解してくれることも良いことでした。参考までにインドには多数の言語が混在しており、他州の人とは英語を使用しないとコミュニケーションができないとのことでした。また、現在のインド補綴歯科学会の興味は①インプラント義歯、②咬合、③審美補綴、④ジルコニアクラウンなどであるようです。

日本補綴歯科学会の国際交流は、現在はボランティア活動で支えられている状況（国際学会への日本補綴歯科学会からの派遣でもサポートはない、など）です。今後、国際交流を推し進めるのであれば、日本補綴歯科学会の中で体制を整える必要があるかもしれません。一案を挙げますと、提携国際学会に発表参加する優秀な若手や特別講演者には日本補綴歯科学会がサポートすることです。

若手の先生の国際的な活躍を期待するとともに、日本補綴歯科学会の国際連携が益々進むことを希望しています。

（国際渉外委員会委員 徳島大学 松香芳三）



総会風景



細川委員長からの表彰状授与



細川先生の発表



松香の発表



懇親会の一場面

【投稿募集】

Letter for Members では、各支部の学術大会報告、日々の研究の報告など、会員の皆さまの投稿をお待ちしております。採否は事前にお知らせいたします。

投稿は、公益社団法人日本補綴歯科学会事務局 (jpr-edit01@max.odn.ne.jp) まで、メールにてお寄せください。

第4回補綴歯科臨床研鑽会「プロソ'18」開催報告

2018年11月18日(日)に日本歯科大学生命歯学部富士見ホールにて第4回補綴歯科臨床研鑽会「プロソ'18」が「インプラント治療における審美修復のOutcome」をメインテーマとしてインプラント治療について、特に審美修復にフォーカスをあて開催された。参加者は日本補綴歯科学会会員ならびに会員外あわせて約300名が参加した。

渡邊文彦大会長、市川哲雄理事長の御挨拶の後、開始された。午前にシンポジウムⅠ「審美インプラント治療におけるインプラント埋入条件」、午後にシンポジウムⅡ「インプラント治療におけるティッシュマネジメントと審美修復」の2部構成で行われた。各シンポジウムともに2名のシンポジストと2名の日本補綴歯科学会会員の8名の演者により講演が行われた。シンポジウムⅠでは河相安彦委員長(専門医制度委員会)の座長の下、丹野 努先生(丹野歯科医院)が矯正治療を含むインターディシプリナリーなインプラント治療について、佐藤隆太先生(SR デンタルクリニック)がフルマウスインプラント症例における上部構造固定様式の工夫などについて、その後、日本補綴歯科学会会員から古屋克典先生(東京歯科大学)、上田一彦先生(日本歯科大学新潟生命歯学部)が講演した。シンポジウムⅠ終了後、企業展示会場にて昼食

をはさみ、午後からはシンポジウムⅡが馬場一美委員長(学術委員会)の座長の下、開始された。はじめに日本補綴歯科学会会員の浜口潤也先生(東京医科歯科大学大学院)、佐藤洋平先生(鶴見大学附属病院)が講演され、その後、上野大輔先生(上野歯科医院)が審美性獲得のための骨造成方法と骨補填材の選択基準などについて、中田光太郎先生(岡山大学病院)が審美領域の複数歯欠損症例におけるインプラント埋入位置と硬・軟組織造成について講演した。両シンポジウム終了後、8名の演者に対して質疑応答が行われ、活発な討議が行われた。最後に市川哲雄理事長より演者へ感謝状が授与され、黒岩明弘次期大会長(松本歯科大学)より第5回補綴歯科臨床研鑽会「プロソ'19」が2019年12月に東京で開催されることがアナウンスされ閉会した。

最後になりましたが、本会開催にあたり多大なるご支援、ご協力を賜りました日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第1講座、歯科補綴学第2講座の先生方、学術委員会、専門医制度委員会はじめ役員の先生方、御協賛いただきました企業の皆様に心より御礼申し上げます。

(プロソ'18) 大会長 日本歯科大学新潟生命歯学部
歯科補綴学第2講座 渡邊文彦



質疑応答風景



閉会後の理事長、大会長、座長、演者集合写真